

消防団 くたくべからざる集団

■ある火災現場から

「○○さん宅が火事だ!」

朝7時半過ぎ、消防署に火災発生のお知らせが入る。通報から1分後には消防隊が現場に向けて緊急出動。国道走行中にも次々に現場の様子の報告が入る。

「建物1階窓から炎が噴出!」

「建物2階からも炎が噴出!」

現場では消防団が放水を行っている。15分後、消防隊が到着。隊員は状況を確認するとすぐに消火を開始。消防隊員、消防団員、私立消防の3者連携による消火活動により、約3時間後に火は消えた。にかほ市では毎年10件前後の火災が発生しており、うち住宅火災件数は、平成30年度に2件、令和元年度に4件、令和2年度に5件となっています。

前述した火災現場の様子も数年前の住宅火災を再現したものです。緊迫した中で彼らの頑張りを上手にお伝えできないもどかしさはありませんが、多少なりとも様子をわかってもらえればと思います。

■消防本部・消防署と消防団

一言で消防と言いますが、市の消防組織は大きく2つに分かれます。多くの皆さんが消防としてイメージするのは消防本部・消防署だと思います。いわゆる消防のプロ集団で、市職員として消防や救急等の業務を行っている65人からなる常

備の組織です。

もう一つは消防団です。非常備である消防団は、別の仕事を持った主に若者を中心に構成される500人からなるボランティア組織です。男女は問いません。

彼らの活動は多岐にわたります。災害時には、消火活動や住民の避難誘導および救助活動を行い、平常時には訓練や火災予防期間中の巡回といった啓発活動等を行っています。

■正しい理解を

実際の火災現場の様子をもう少し先に進めてみます。消防隊は次の有事に備え、炎が消えたら速やかに本部に戻らなければなりません。その後の現場対応は消防団が行います。消防隊が到着する前からだけでなく、消防隊が引き上げた後の余燼を一つずつ消していくのも消防団の役割です。決して大袈裟ではなく、消防団なくして現場は回らないのです。

多くの消防団員はきわめて真面目です。その任務と役割に誇りを持っています。確かに、入団のきっかけは、町内の青年会から誘われたからとか、親に入ると言われたからといった、緩やかな気持ちからの人がほとんどです。しかしながら、団員として活動していくうちに消防団の理念の崇高さと必要性に気づくようになります。彼らの中には消防団の活動や地域の在り方について語らせると止まらな

くなる人もいます。その姿は入団した頃とはまるで別人です。まさに団員の活動を通じて、新たな価値観が培われていったからだと思えます。

■地域防災の今後

近年、日本各地でいろいろな自然災害が多発しています。しかもその規模は年々大きくなっています。それに比例するように消防団の役割も大きくなっています。しかしながら、それと反比例するように災害に立ち向かうべき消防団員の数が減少しています。にかほ市も例外ではありません。かつては集落毎にあった消防団が、いつの間にか人員不足により消滅していつているのです。

自らが暮らす地域をどのように維持し、どのように守っていくのか、本来の地域の在り方についての根本が今問われています。地域に暮らす一人ひとりが、地域防災の在り方を議論し直す時が来ています。自分以外の誰かがやってくれる時は過ぎたのだと私は思います。



にかほ市長
市川雄次